

|        |      |          |                     |                       |               |         |                  |
|--------|------|----------|---------------------|-----------------------|---------------|---------|------------------|
| 目次・使い方 | はじめに | CEOメッセージ | 持続可能なモビリティ社会の実現に向けて | ブルーシズンシップ<br>—日産のCSR— | ルノーと日産のアライアンス | CSRデータ集 | 第三者保証            |
| 環境     | 安全   | 社会貢献     | 品質                  | バリューチェーン              | 従業員           | 経済的貢献   | コーポレートガバナンス・内部統制 |

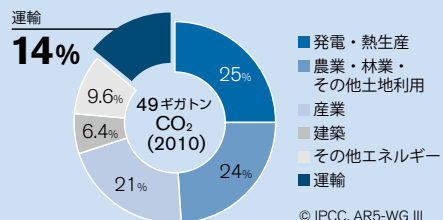
# 持続可能なモビリティ社会の実現に向けて

世界が急速に変化していく中、私たちを取り巻く社会は直接的かつ長期的に影響を及ぼすさまざまな課題に直面しています。日産は持続可能なモビリティ社会の実現に向けて、その課題を特定し、解決するために必要となる取り組みを推進しています。

## 日産が目指すのは「ゼロ・エミッション」と「ゼロ・フェイタリティ」

地球温暖化、人口構成の変化、都市化の進行といったメガトレンドは現代社会に大きな影響を与えています。人口の増加に伴い、世界の自動車台数は2050年までに25億台になると予測されていますが、世界の温室効果ガス排出量に占める運輸部門の割合はおよそ14%と試算されています。また、安全技術の開発と普及により、クルマの安全性は向上しているものの、交通事故による死亡者の数は年間およそ125万人にも上ります。これらの課題を解決し、持続可能なモビリティを誰もが利用できるように日産が目指しているのが、走行中のCO<sub>2</sub>排出をゼロにする「ゼロ・エミッション」と日産車がかかわる交通事故の死亡・重傷者数を実質ゼロにする「ゼロ・フェイタリティ」です。

部門別の温室効果ガス排出量



世界の交通事故死亡者数(2013年)

# 125万人

出典：WHO「Global Status Report on Road Safety 2015」

## 新しい時代を切り開く「日産インテリジェント・モビリティ」

日産は「ゼロ・エミッション」と「ゼロ・フェイタリティ」の実現に向けたさまざまなイノベーションに取り組んでいます。この取り組みを「日産インテリジェント・モビリティ」と呼んでいます。世界中のお客様に向けて、安全かつ持続可能な社会を実現するために、モビリティとして運転する楽しさをさらに追求すると同時に、クルマがどのように走るのか、どのようにエネルギーを使うのか、そして社会とどのようにつながっていくのか、という3つの領域についての考え方を明確にしました。「日産インテリジェント・モビリティ」は、以下の3つの領域から構成されています。

- 日産インテリジェント・ドライビング：クルマがより信頼できるパートナーへ。日産の自動運転技術「プロパイロット」が代表例
- 日産インテリジェント・パワー：クルマのさらなる効率化と電動化による走りの楽しさ。電気自動車(EV)が代表例
- 日産インテリジェント・インテグレーション：クルマと社会がつながることで生まれる新しい価値

日産は、グローバルでのEVセグメントにおいて先駆者かつリーダーになるという長期的な戦略に取り組んでいます。量産型EV「日産リーフ」は世界で最も売れており、2016年3月末時点の累計販売台数は20万台を超えました。また、自動運転やそれを構成するさまざまな安全技術の幅広い車種への搭載を進めています。日産は「ゼロ・エミッション」、「ゼロ・フェイタリティ」を実現するために、「日産インテリジェント・モビリティ」の取り組みを段階的に進めており、EVや自動運転などの革新的な技術による価値を届けていきます。

|        |      |          |                     |                        |               |         |                  |
|--------|------|----------|---------------------|------------------------|---------------|---------|------------------|
| 目次・使い方 | はじめに | CEOメッセージ | 持続可能なモビリティ社会の実現に向けて | ブルーシチズンシップ<br>—日産のCSR— | ルノーと日産のアライアンス | CSRデータ集 | 第三者保証            |
| 環境     | 安全   | 社会貢献     | 品質                  | バリューチェーン               | 従業員           | 経済的貢献   | コーポレートガバナンス・内部統制 |

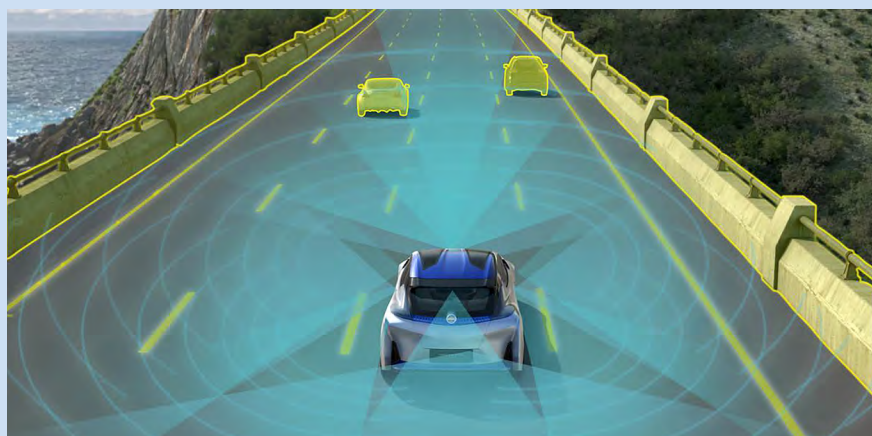
持続可能なモビリティ社会の実現に向けて

「日産インテリジェント・ドライビング」

「日産インテリジェント・ドライビング」を実現する重要な要素は走り・快適性・安全性です。

日産は、クルマが人を守るという独自のコンセプト「セーフティ・シールド」を基本に、安全技術の開発をリードしてきました。車線逸脱警報、車線逸脱防止支援システム、エマージェンシーブレーキなど、日々の運転におけるストレスを取り除くと同時に、危険リスクを低減する技術の多くはすでに実用化しており、ドライバーが危険を認識し、適切なアクションをとることをクルマが支援することで、モビリティの安全性を高めています。今後は、自動運転技術を主要車種に投入していくことで、リーダーシップをさらに推し進めていきます。

日産は、2016年末までには混雑した高速道路上の単一レーンで安全な自動運転を可能にする技術を、2018年には危険回避や車線変更を自動的に行う複数レーンでの自動運転技術を投入します。2020年までには、一般道においてドライバーの操作介入なしに、十字路や交差点を自動的に横断できる自動運転技術を導入する予定です。



ニッサンIDSコンセプト

「日産インテリジェント・パワー」

日産は未来に向けて幅広いエネルギーの活用にチャレンジしています。再生可能エネルギーを活用できるEVの実用化も、日産が挑戦してきた技術のひとつ。その技術や販売において日産は業界をリードしてきました。量産型EVとして市場投入した「日産リーフ」の走行距離は合計21億kmを越えています。電気商用車「e-NV200」の発売も開始し、「走る蓄電池」としての新たな使い方を提案しています。

日産はEVの利便性を高めるために、より長い航続距離の実現に取り組んでおり、バッテリーのエネルギー密度と性能の向上を推進しています。2015年の「東京モーターショー」で発表、2016年の「ジュネーブモーターショー」や「北京モーターショー」にも出展した「ニッサンIDSコンセプト」は60kWhの大容量バッテリーを搭載し、NEDCモード1回当たりの充電で550kmの航続距離を実現しています。

なお、ダウンサイズターボやエクストロニックCVTなどの燃費向上や快適な走りを実現するための既存技術も「インテリジェント・パワー」に含まれます。

▶ NEDC: New European Driving Cycle



ニッサンIDSコンセプト

|        |      |          |                     |                       |               |         |                  |
|--------|------|----------|---------------------|-----------------------|---------------|---------|------------------|
| 目次・使い方 | はじめに | CEOメッセージ | 持続可能なモビリティ社会の実現に向けて | ブルーシズンシップ<br>—日産のCSR— | ルノーと日産のアライアンス | CSRデータ集 | 第三者保証            |
| 環境     | 安全   | 社会貢献     | 品質                  | バリューチェーン              | 従業員           | 経済的貢献   | コーポレートガバナンス・内部統制 |

持続可能なモビリティ社会の実現に向けて

「日産インテリジェント・インテグレーション」

自動車メーカーはどのように社会に対して新しい価値を提供し、より環境に優しく、より安全なモビリティ社会の実現に貢献できるでしょうか。その答えは充電インフラの整備だけでなく、人、クルマ、そして社会インフラをネットワーク化することにある、と日産は考えています。

日産は日本、欧州、米国、メキシコなどの市場で、EVの充電ネットワーク拡大にも貢献し続けており、急速充電器はすでに世界で10,000基以上が設置されています。

充電インフラを整備するだけでなく、人、クルマ、そして社会インフラをネットワーク化することも自動車メーカーとしての日産の使命です。クルマを道路、情報ネットワーク、電力網といった社会インフラとつなぐことができれば、渋滞の緩和、より効率的なカーシェアリング、遠隔操作によるクルマの新しい使い方やエネルギー管理の効率化などが実現できます。また、仕事やプライベートで使うデバイスをどこでも自由に使いたいというニーズはグローバルに高まっており、こうしたメガトレンドはクルマにも及んでいます。日産は人とクルマがつながる社会の実現に貢献していきます。

「インテリジェント・インテグレーション」を推進し、カーシェアリングや統合的な交通マネジメントシステム、非接触充電ネットワークなどを実現することで、「インテリジェント・ドライビング」と「インテリジェント・パワー」の取り組みを社会と融合させ、「インテリジェント・モビリティ」を具現化していきます。その取り組みはすでにさまざまな形で始まっています。

「日産インテリジェント・モビリティ」を支える—日産の研究開発

さまざまな問題を抱える予測不能な現代社会において、「将来のモビリティ社会に貢献する新たな価値の創造」は日産の大きなミッションであると考えています。日本、米国、インド、ロシアにある日産自動車の研究拠点では、社会のトレンドを見据え、将来のモビリティ社会に対応するための研究を行っています。この研究活動のベースとなり、新しい価値を発見・提案・提供できるイノベーションの礎となるのが、「Nissan Research Way (NRW)」です。NRWは「将来の技術動向と社会の価値観変化を見極めること」「世界の智が集うオープンイノベーションの拠点になること」「戦略的領域で内部に高い技術力を持つこと」の3本の柱からなっています。日産では「日産インテリジェント・モビリティ」の実現に向けた研究開発も、NRWのもと各拠点で推進。安全技術やEVなどの分野で、すでに実用化が始まっています。

今後さらに研究開発を進め、自動運転技術やコネクテッドカーを実現するうえで鍵となるのが、ソフトウェア開発、特にデータ解析技術や人工知能(AI)技術の開発です。世界の先端企業や大学の研究機関が集結する米国カリフォルニア州の日産総合研究所シリコンバレーオフィスではAI技術開発に取り組んでおり、自動車関連の技術競争が活性化する中、最先端の研究コミュニティと連携し、技術の吸収と自動車への適応を迅速に行っています。

最先端のAI技術を投入することで、人間が普段行っている複雑な判断や動作が自動運転でも再現できるようになります。「ニッサンIDSコンセプト」は、各種センサーやカメラから得た情報をAIが総合的に処理することで、安全で快適な自動運転を実現しています。



日産総合研究所シリコンバレーオフィス